

JICA課題別研修「中央アジア・コーカサス地域幹線道路沿線地域開発」研修を受け入れました

平成27年6月3日から7月3日にかけて、アルメニア、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタンの6カ国から12名の国及び地方政府職員を本コースの研修員として受け入れました。

この研修は、気候風土や広域分散社会といった特性が中央アジア・コーカサス諸国と近似している北海道を題材としてカリキュラムを作成し、対象地域において幹線道路沿線地域の適切な開発計画が立案・実施され、地域住民の所得向上や地域間格差の是正に貢献することを目指して実施されました。



開発局長表敬

研修には講義と視察のほかディスカッションも含まれており、北海道開発局職員や寒地土木研究所総括主任研究員、JICAの国際協力専門員、札幌国際大学教授からアドバイスを受けながら、研修員は日本で学んだ成果を自国の発展に活かすためのアクションプランを練り上げていきました。



ディスカッションの様子

カリキュラムには、道の駅についての講義や視察も含まれています。ニセコ町や黒松内町の道の駅を視察し、各自治体職員から道の駅を活用した取り組みについて講義していただきました。「道の駅」が地域社会にもたらす効果について学習し、「自国にも道の駅を作りたい」と話す研修員もいました。



道の駅ニセコビュープラザ視察

地域固有の文化を活かした地域開発の事例として白老町のアイヌ民族博物館も視察しました。学芸員の方に解説していただきながら博物館を見学後、アイヌ民族の伝統的な踊りやムックリ演奏を鑑賞しました。白老町職員からも町のアイヌ施策や建設予定の国立アイヌ文化博物館（仮称）について講義していただきましたが、研修員たちはアイヌ民族に大いに関心を持った様子で、町の施策や国立博物館建設が決まった経緯について熱心に質問していました。



アイヌ民族博物館

シーニックバイウェイについての講義や視察もカリキュラムに含まれており、北海道開発局建設部道路計画課と帯広開発建設部から講義を受けた後、トカプチ雄大空間ルートを視察しました。講義でもシーニックバイウェイの活動内容について多くの質問が出ましたが、自国での導入を検討し、写真付きの地図を作成した研修生もいるなど、関心の高さが伺えました。



トカプチ雄大空間の活動視察
(十勝が丘公園展望台にて)

研修最終日、7月3日にはアクションプラン発表会が行われました。道の駅やシーニックバイウェイの導入について発表した研修員も複数いたことから、北海道で現在行われている取り組みが中央アジア・コーカサス地域においても活用されることが期待されます。



アクションプラン発表会の様子

アクションプラン発表会後は閉講式とフェアウェルパーティーが行われ、北海道開発局からは開発監理部次長がご挨拶いたしました。各研修員には JICA 北海道 北海道国際センター所長より修了証書が授与されました。



閉講式の様子
(開発監理部次長挨拶)



修了証書授与